

# オゾンナノバブル水の ジンジバリス菌に対する検証試験

試験機関：一般財団法人 日本食品分析センター

## 【試験概要】

検体に試験菌液を接種後（以下「試験液」という。）、所定時間後に試験液中の生菌数を測定した。また、あらかじめ予備試験（中和条件の確認）を行い、検体の影響を受けずに生菌数を測定できる条件を確認した。

## 【試験結果】

結果を表-1、試験条件を表-2 に示した。また、培養後の生菌数測定平板を写真-1~3 に示した。

なお、試験液を SCDLP 培地で 10 倍に希釈することにより、検体の影響を受けずに生菌数の測定ができることを予備試験により確認した。

表-1 試験液の生菌数測定結果

試験菌	対象	生菌数(/ml)		
		開始時	1分後	5分後
ジンジバリス菌	検体	-	500	<100
	対照	$2.1 \times 10^6$	$2.4 \times 10^6$	$8.1 \times 10^5$

<100：検出せず

表-2 試験条件

	試験菌	Porphyromonas gingivalis JCM 8525 (ジンジバリス菌)
試験菌液	試験菌を5%馬脱繊維血液加Brucella Agar (BBL)で35°C±1°C、4~7日間嫌気培養した後、生理食塩水に浮遊させ、菌数が10 <sup>8</sup> ~10 <sup>9</sup> /mlとなるように調製した。	
試験液	検体10mlに試験菌液0.1mlを接種	
保存条件	1分、5分(室温)	
対照	生理食塩水	
中和条件	SCDLP培地[日本製薬株式会社]で10倍希釈	
生菌数測定	5%馬脱繊維血液加Brucella Agar, 平板塗抹培養法	35°C±1°C、 5~7日間嫌気培養



写真1 ジンジバリス菌 開始時

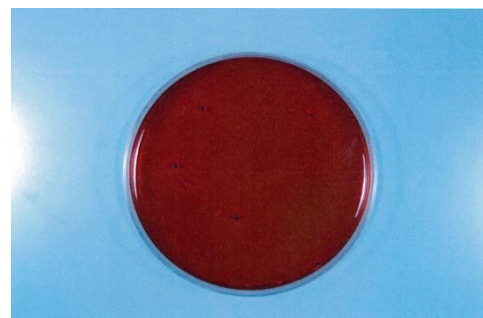


写真2 ジンジバリス菌 1分後



写真3 ジンジバリス菌 5分後

以上

※本資料の無断転載・引用を禁じます。